

平成29年度 第1回 学校教育相談研修会報告書

学校教育相談専門委員 磐田東高等学校 池田貴宗

講師 安川 雅史 氏 (全国webカウンセリング協議会 理事長)

演題 「スマホ時代を生きる生徒の心の闇にどう向き合うか」

日時 平成29年11月14日 14:00~16:00

場所 静岡県産業経済会館 3階 特別会議室

参加者 30名

講演前、安川氏出演のビデオにて、SNSの個人情報の扱い、ネットいじめについて、それぞれの予備知識を得る。

< SNS利用における危険性 >

大学生や高校生、中学生のインターネットやSNSを利用した問題行動について、具体例を基に話をされた。SNSを利用した問題行動は全国で起こっており、生徒は自覚無くアップロードした画像や映像、発言が生徒の想像を遙かに超えて拡大し、生徒の所属する学校はもちろん、その生徒の保護者や保護者の勤め先、兄弟や姉妹にも被害が及ぶことについて言及。それらが、様々なメディアで取り上げられることで、生徒本人の将来において、長期に渡り多大な影響を及ぼすことを指摘。学校教育に携わる一人一人が意識を変え、生徒に対しSNSの危険性について、教員一人一人が啓蒙を行っていかなければならない。危険性について伝える際には、逃げ道を塞ぐような伝え方、威圧的な話し方では伝わらない。情に訴えかける接し方が重要で、研修会では実際の接し方について具体例を実演された。また、スマートフォン利用の際、以下のことについて注意することを話された。

フィルタリングの積極的利用

SNSソフトウェアの設定における注意点 友だち自動追加=オフ

友だちへの追加を許可=オフ

< スマートフォンの利用について >

スマートフォンのゲームは、依存性が強く、保護者の目の届かない深夜も使用するようになる。スマートフォンの画面から出るブルーライトにより、脳内でメラトニンが出なくなり、寝付きが悪くなることを指摘。脳の働きを良くするため、入眠前の使用を止めるよう話された。他に、実例として食事中もスマートフォンを離さず使い続けることで、家族のコミュニケーションが減ることを指摘。まずは、保護者自身がスマートフォンの使い方を改めることが大切であることも話された。

< 生徒から相談を受ける際に気をつけること >

相談を受ける際は、相談室などリラックスできる環境で行う事が求められる。混乱する生徒に対しては、気持ちを整理させるため、一旦、紙に書き出させることが有効な方法の1つである。話を聞く際には、名実共に「寄り添うこと」が大切で、生徒の横に座り、話を聞く。そして、生徒が話をしている際には、生徒の顔を見て、しっかりとうなずく動作をすることが大切である。先生という職業が、相談を受ける際に邪魔をすることがあるため、生徒を受け入れる、守ろうという気持ちで接する事が重要であること、などを話された。